

アトピー性皮膚炎に対する温泉効能 解析による付加価値向上

本文章は、2014年8月7日に倉吉未来中心で開催された鳥取大学、地域貢献支援事業

「三朝温泉の効能を活用した地域活性化～アトピー性皮膚炎に対する温泉効能解析による付加価値向上～」

をもとに個人的にまとめたであり、研究された先生の内容と異なる可能性もあります。

※参考文献

- 1) 辻野 久美子, 三朝温泉の効能を活用した地域活性化～アトピー性皮膚炎に対する温泉効能解析による付加価値向上～ (発表資料), 2014

実験概要

目的

三朝温泉のアトピー性皮膚炎に対する症状改善効果について科学的に検証する

実験対象

- ・ マウス

実験概要

- ・ 皮膚炎発症前から温泉水を使用した場合の効果
- ・ 皮膚炎発症後から温泉水を使用する場合の効果
(温泉水は、ラドンの影響を除去するため2週間汲み置きしたものを使用)
(使用方法は、ミスト状にした温泉水を全身に噴霧)

評価項目

評価項目

1. 皮膚臨床症状重症度（状態の客観観察）
2. 擦過行動の定量解析（2時間あたりの擦過回数を測定）
3. 経表皮水分蒸散量（皮膚から蒸発する水分量を測定）
4. TSLP発現量の測定（表皮におけるTSLPの遺伝子発現量を計測）
5. 血漿総IgE抗体値の測定（免疫機構の活性化の指標）

結果

結果（予防効果）

- ・三朝温泉水はアトピー性皮膚炎の発症を抑えることはできなかった
- ・水道水を使用した場合と比べると症状は緩和された（症状、皮膚バリア機能は陰性と同程度まで症状を抑えられた。）
（免疫機構については、陰性よりも活性化された）

結果（治療効果）

- ・三朝温泉水は、水道水を使用した陽性に比べ、症状を改善させた。
（症状、皮膚バリア機能については、陰性と同程度まで改善させた）
（免疫機構の活性化については、陰性と同程度まで抑えることはできなかった）

考察

考察

三朝温泉水の作用

- ・ 著明な経表皮水分蒸発量の減少
- ・ アレルギー機構を完全に抑えることはできなかった